

陈端端

编著

大学日语泛读

大学 日语 泛读

(第二册)



大学日语泛读

第二册

陈端端
编著

厦门大学出版社

大学日语泛读

(第二册)

陈端端 编著

*

厦门大学出版社出版发行

(地址:厦门大学 邮编:361005)

莆田市印刷厂印刷

(地址:莆田市城厢区沟头 邮编:351100)

*

开本 850×1168 1/32 9.5 印张 238 千字

1998 年 6 月第 1 版 1998 年 6 月第 1 次印刷

印数:1—2000 册

ISBN 7-5615-1370-4/H·86

定价:12.00 元

本书如有印装质量问题请直接寄承印厂调换

前 言

本书为大学日语泛读教材的第二册(第一册为林娟娟编著),适用于日语专业本、专科二年级下学期。

本教材为提高学生的语言应用能力,以及培养鉴赏文章的素质,采用了日本现代作家、著名语言学家的文章以及多位近、现代文学家的小说等,共三十篇。体裁多样,内容丰富,生动有趣。

本教材共分十课,每课除课文之外,另附有阅读文章两篇。课文练习以语言(词汇、语法)练习为主,阅读练习以文章理解为主,形式多样。解说部分以引导为目的,较为详细地分析了词汇、句型、助词、助动词等的使用方法,全书词汇量约为九百个左右。

本教材另一特点为:语法进度基本与上海外语教育出版社的《新编日语》第四册同步,可作为同期泛读教材。所选文章多已在教学过程中运用多次,并获得了良好的效果,相信本教材对提高学生的日语学习兴趣以及专业水平将有较大的帮助。

本书成稿后,承蒙我校日语教师山口展生先生、厦门大学南洋研究所刘晓民先生、我校日本语教育研究中心主任纪太平先生对其认真审阅。本书的出版还得到林娟娟老师的热心配合,日本亚州儿童教

育基金协会(A C C E F A)会长加藤尚彦先生、日本著名画家须加五道先生的大力协助,谨在此向各位致以诚挚的谢意。

由于水平有限,加之时间较紧,难免会出现错误及不妥之处,恳请读者不吝指出。

编者

一九九八年二月

本册内容与结构

一、本册内容

本书为《大学日语泛读》第二册，适用于二年级下学期学生或使用词汇及理解词汇量达四千以上者使用，解说四十四项，词汇量约为九百左右。

二、本册结构

本册共十课。每课正文一篇，阅读文章二篇。教学时间每课为八学时。每课结构为：课文、生词、解说、阅读、练习。各部分互有关联，编写主题明确。

1、本教材编写主题

本册以语言运用、文章鉴赏能力指导为主要目的，通过介绍各种体裁的短篇小说及优秀文章，让学生欣赏名家的写作特点及文章表现手法，同时有助于了解日本人、日本社会和日本文化等。课文末尾均有标明文章出处，并对作者进行介绍。

2、词汇

所列单词以词汇、读音、音调、词性、中文释义为顺序。释义以本篇文章为主，音调以《新明解国語辞典·第四版》、《明解日本語アクセント辞典》、《日本語・発音アクセント辞典》为依据，单词词性

用以下略语表示：

〔名〕——名词

〔代〕——代词

〔地〕——地区名称

〔自五〕——自动词五段动词

〔他五〕——他动词五段动词

〔他下一〕——他动词下一段动词

〔自サ〕——自动词サ变动词

〔自下一〕——自动词下一段动词

〔副〕——副词

〔形〕——形容词

〔接〕——接续词

〔形动〕——形容动词

〔数〕——数词

〔组〕——词组

〔自上二〕——自动词上一段动词

〔他上二〕——他动词上一段动词

〔他サ〕——他动词サ变动词

〔感〕——感叹词

〔助动〕——助动词

〔连体〕——连体词

3、解说

作者用丰富、实用的例句对本课出现的语法、句型以及常用词汇进行解说，例句均配有译文。

本部分主要参考《广辞苑 第四版》（岩波书店，新村出编）、《现代国语例解辞典·第四版》（小学馆，林巨树监修）、《新日本语语法 上·下册》（外研社，朱万清编著）、《日语惯用型详析》（湖南出版社，周炎辉编著）、《日语惯用型》（中国人民解放军洛阳外国语学院，陈书玉编）、《现代日语助词与助动词》（清华大学出版社，王彦花编著）、《日语惯用句大辞典》（东京堂出版，白石大二编）等。

4、阅读

此部分共两篇文章，文章的形式同课文大致相同，单词解释顺序与课文一致。

5、练习

每课练习分三部分,以课文为主,侧重在词汇应用方面进行指导,并以培养学生对文章的理解能力为主。

6、附录

为方便学生学习,书后附有解说项目、生词一览表以及标点符号使用方法。

目 录

第一課	一
本文	一
敬語の使い方	一
単語リスト	三
解説	四
一 「…と(に)なる」	四
二 …のだ	五
三 …を…という	六
四 …うちに	七
五 …ことが大切だ	七
六 慣用句	八
閲読	八
1 二人称代名詞の敬語	八
2 「はい」と「いいえ」	一一
第二課	一四
練習	一四
本文	一四
心と言葉	一四
単語リスト	一五
解説	一六
一 …た挙げ句に	一六
二 補助動詞「かける」	一六
三 …からこそ	一七
四 …には…ことが必要だ	一八
五 補助動詞「かねる」	一九
六 以上(は)	二〇
七 慣用句	二〇
閲読	三一

1	言葉の力	三一
2	ワンワンとところころ	三五
	練習	三八
第三課		
	本文	四五
	或る朝	四五
	単語リスト	五二
	解説	五五
	終助詞「ぞ」	五五
	二「……ておくれ」	五六
	三文句	五六
	四慣用句	五七
	閲読	五七
1	かくれんぼう	五七
2	心を伝える	六二
	練習	六六
第四課		
		七三

	本文	七三
	最後の授業	七三
	単語リスト	八三
	解説	八六
一	越(こ)し(に)の()	八六
二	どうか(て)ください	八七
三	限り(は)	八八
四	补助动词「渡(わた)る」	八八
五	慣用句	八九
	閲読	八九
1	言葉の魔術	八九
2	「あいにくですが」申しわけございま せんが」のコトバひとつで	九五
	練習	九八
第五課		
	本文	一〇五
	夜の音	一〇五

単語リスト	一〇九
解説	一一〇
一 ……どころか…すら(も、さえ、まで) ……	一一〇
二 いざしらず	一一一
三 尽す	一一一
四 自動詞「する」	一一二
五 怪しい(疑わしい、可笑しい)	一一三
六 慣用句	一一四
閲読	一一五
1 みやげの品	一一五
2 飲みますか	一一八
練習	一二二
第六課	一二九
本文	一二九
老婦人と青年たち	一二九
単語リスト	一三二

解説	一三四
一 めった(に、な)	一三四
二 ……というもの	一三五
三 副助詞「こそ」	一三五
四 具合	一三六
五 副助詞「なんて」	一三七
六 慣用句	一三七
閲読	一三八
1 隣りの住人	一三八
2 正月	一四二
練習	一四五
第七課	一五三
本文	一五三
柿の秋	一五三
単語リスト	一五五
解説	一五六
一 都合	一五六
二 接尾詞「連れ」	一五七

三	接尾詞「去る」	一五八
四	接続助詞「たら」	一五八
閲読		一六〇
1	ローズマリーの旅	一六〇
2	なぜ卒業旅行なのか	一六四
練習		一六八
第八課		一七五
本文		一七五
おしゃべり		一七五
単語リスト		一八一
解説		一八二
一	ことにある	一八二
二	かつきり	一八三
三	どれだけか	一八四
四	慣用句	一八四
閲読		一八五
1	野山の花	一八五
2	受験戦争	一八八

練習		一九一
第九課		一九六
本文		一九六
窓辺の花		一九六
単語リスト		二〇〇
解説		二〇二
一	接尾詞「たてる」	二〇二
二	まさに	二〇二
三	副助詞「なんか」	二〇三
四	に比べれば	二〇四
五	慣用句	二〇四
閲読		二〇五
1	かゆいところ	二〇五
2	カラオケ	二一三
練習		二一六
第十課		二二四
本文		二二四

坊っちゃん(一)	二二四
単語リスト	二二八
解説	二三〇
一 請け合う	二三〇
二 畳	二三〇
三 どうせ	二三一
四 割	二三二
五 言いつける	二三三
六 慣用句	二三三

閲読	二三四
1 坊っちゃん(二)	二三四
2 パチンコ	二四二
練習	二四五
付録	二五二
解説項目	二五二
生詞一覧表	二五四
标点符号使用方法	二八七

本文

第一課

敬語の使い方

大石 初太郎
おおいし はつたろう

あなたがたは、先生に向かって、「先生、もう帰るの。」と言うだろうか。それとも、「先生、もう帰るんですか。」と言うだろうか。

「です」を付けて言うほうが、言い方がていねいになる。もういちだんことばづかいをよくすると、「先生、もうお帰りになるんですか。」となる。

「帰るんですか」の「です」は、相手である先生に対してていねいに言う言い方だ。「お帰りになるんですか」の「お帰りになる」は、先生を尊敬する気持ちをごめて言うときに使うことばだ。「田中君のお父さんがアメリカからお帰りになったそうだ。」と言うときには、話の中に出て来る田中君のお父さんを尊敬して言っているわけだ。

こういう、相手の人にていねいに言うときに使うことばや、相手や話の中に出て来る人に対す

る尊敬の気持ちをごめて言うときに使うことばを敬語という。

ふだん親しく付き合っている友達などには、敬語は使わなくてもよいが、目上の人や初めて出会った人などには、敬語を使うのがわたしたちの習慣だ。

敬語は、もともとは、目上の人に対する尊敬の気持ちを表すために使ったものである。しかし、敬語の役わりはそれだけではない。相手がふだん親しくしている人なら、気心がよく知れているから、おたがいにえんりよのない態度で話し合える。ところが、初対面の人などと話すときには、少しえんりよをして、ことばづかいに気をつけて、相手の心をきずつけないようにしようという気持ちになる。このような、相手に対する思いやりの気持ちが、敬語にはこめられていると考えることができる。

ていねいに言う敬語には、「です」のほか、「もうすぐ正午になります。」の「ます」があり、また、「お茶を飲む」「ごほうびをあげる」などの「お」や「ご」の付いたことばがある。

相手や話の中に出て来る人を尊敬して、その人自身や、その人の動作、その人のものなどを表す敬語には、「お帰りになる」「お……になる」をはじめ、たくさんある。

「どなた」「山田さん(様)」

(その人自身)

「なさる」「おっしゃる」「いらっしゃる」

(その人の動作)

「先生のお手紙」「あなたのご意見」

(その人のもの)

そのほか、まだいろいろある。

また、敬語には、「くわしく先生に申しあげる」と言うときの「申しあげる」のようなものがある。これは、目上の人などに対する自分の動作を言うとき、へり下った気持ちを表す言い方である。「その荷物はわたしがお預かりします」の「お……する」や、「この花を差しあげましょう」の「差しあげる」なども、へり下った言い方である。また、「後かたづけは妹がいたします」の「いたします」も、へり下った言い方である。目上の人に対する自分の身内の人の動作は、へり下った言い方で表すのがふつうだ。

敬語には、このように、いくつかの種類があり、それぞれの種類の中にたくさんの言い方があるので、正確に使い分けることはかなりむずかしい。しかし、敬語は、ことばづかいに気をつけて話したり聞いたりしているうちに、身についてくるものだ。だから、あなたがたは、今のうちから、敬語を適切に使うように心がけていくことが大切だ。

(東京書籍《新しい国語・五上》による)

単語リスト

一段(いちだん)①「副」 更加、越发

量、装填

込める(こめる)②「他下一」 集中、倾注(精神、力) 気心(きこころ)②「名」 心情、性情

初対面(しよたいめん)②「名」 初次见面

正午(しょうご)①「名」 正午

褒美(ほうび)④「名・他サ」 奖品,褒奖

遜る(へりくだる)④⑤「自五」 谦逊,谦虚

後片付け(あとかたづけ)③「名」 收拾,拾掇,清理

身内(みうち)①「名」 亲戚,亲属

適切(てきせつ)①「形动」 恰当,适当

心掛ける(こころがける)⑤「他下一」 留心,记在心

里

解 説

一、(体言・形式体言・形容动词词干)と(に)なる

初対面の人などと話すときには、少しえんりよをして、ことばづかいに気をつけて、相手の心をきずつけないようにしようという気持ちになる。

もういちだんことばづかいをよくすると「先生、もうお帰りになるんですか。」となる。

两者均接续于体言、形式体言或形容动词词干之后。「…となる」重点在于强调变化的结果,多译为「等于」、「变成」、「成」等。「…になる」的重点在于变化的过程,具有渐渐转变的语感,多译为